



京都府立与謝の海養護学校は、1969年、「ねたままの子ども、おむつをしたままの子どもにも教育を」との願いを実現するための十数年におよぶ障害児の親や関係する教員などを中心とした多くの人たちの粘り強い運動とそれを受け止めた行政の支えによって設立されました。

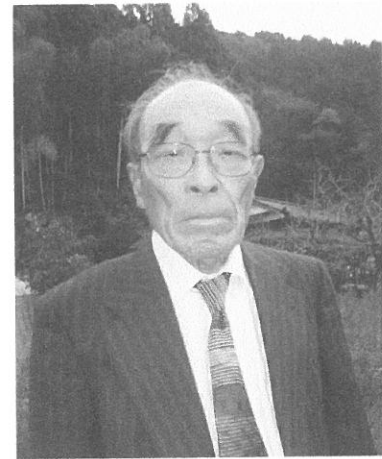
設立後の学校づくりは、「すべての子どもにひとしく教育を保障する学校をつくろう」「学校に子どもを合わせるのではなく、子どもに合った学校をつくろう」「学校づくりは箱づくりではない、民主的な地域づくりである」との学校設立の理念を実践的課題として掲げとりくまれました。

しかしながら養護学校義務制施行に先駆けること10年前から始まった与謝の海のとりにくみは、けっして順調ではなく、多くの困難を乗り越え切り開き、たくさんの課題を克服しながらの歩みでした。

実践のなかでわかってきたことを深め確かめながら積みあげてきた教育の中味づくり、受け入れた子どもたちの障害に合わせた学校の施設設備や教職員体制を整えとりくみ、障害を受けている人たちが学校卒業後に生きがいをもって働き豊かに発達し続けられることのできる地域体制づくり等、創立後の50年の歴史のなかでたくさんの成果を生み出してきました。

与謝の海50年の歩みは、すべての子どもにひとしく教育を保障する「養護学校義務制」の実現と発展を牽引するとりくみであると共に、障害を受けている人々の生活と権利を守る体制づくりの上でも大切な役割を果たしてきたのではないかと思います。

学校創立50周年を迎えるにあたり、なによりも大事にしようとしたことは、学校設立運動から始まった学校づくりの歩みを子どもたち、保護者、教職員、地域や全国で関わり支えてくださった関係者や研究者のみなさんと確かめ合い共有し



与謝の海養護学校 創立50周年に寄せて

与謝の海創立50周年
実行委員会代表 佐織保男 さん

合い、これからの学校のさらなる発展と障害を受けている人たちが生きがいをもって豊かに暮らすことのできる地域づくりに役立つとりくみにすることでした。

学校創立50周年記念誌は、学校設立の運動から始まる50年の学校の歩みを俯瞰できるものとするため、第1部では可能な限りたくさんの資料や写真で学校の歴史を振り返る内容とし、第2部では、卒業生、保護者、現職およびOBの教職員、学校づくりを支えてくださった研究者のみなさん、地域で障害者の福祉の仕事に携わっておられる方々など、たくさ

んの方から与謝の海と共に歩んだ歴史や思い出、得られた教訓などを寄稿していただき掲載しました。50周年記念の集い、50周年を祝う会も学校に関係するたくさんの方に集まっていたいただき、映像やスピーチ、思い出の歌や踊りなどで学校の歴史や思い出をみんなで共有し確かめ合う内容となりました。



さおり やすお/京都府内の中学校勤務を経て、1969年、与謝の海養護学校高等部の教員となる。進路支援のほか、京都北部障害者問題連絡会の事務局として共同作業所づくりにも尽力。1978年～88年まで同校の教頭を務める。